（別紙4）　　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1272500511		
法人名	特定非営利活動法人　さわやか福祉の会　流山ユー・アイネット		
事業所名	グループホーム「わたしの家」		
所在地	千葉県流山市西深井176-1		
自己評価作成日	平成25年2月26日	評価結果市町村受理日	平成25年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成25年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームの前庭には四季折々の花が咲き、春には見事な桜を見る事ができる。自然に囲まれた静かな環境の中、みんなで語らいながらゆっくりと散歩ができる。又、ホームの広いリビングの窓辺には暖かな陽光が差し込み、利用者たちの集いの場になっている。ゆったりと穏やかな雰囲気を醸し出している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者入居に際して、家族にも支援を依頼しており、このことで利用者、家族、職員間の繋がりが密になっていると思われる。3ヵ月ごとに開催される家族会では、職員のいないところで話し合いをしてもらうようにしており、代表が家族の意見をホームに伝えている。地域との交流も盛んで、夕涼み会に合わせて開催した運営推進会議には、地域住民が多数参加している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを大事にしている。管理者と職員は、理念を共有し実践できるように時々研修会議を行っている。	理念をわかりやすい言葉で表しており、桂棟、楓棟それぞれユニットリーダーを中心に個々の利用者に当てはめ、尊厳・信頼・安心は何かを職員が具体的に考えることで、理念を浸透させ実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶や会話等、食事会や子供会、自治会主催の生き生き体操に参加。地域活動に参加している。	子供会、敬老会、ゴミゼロ運動、神社のお祭りへの参加、3ヶ月に1回の自治会主催の生き生き体操への参加、夕涼み会への参加の呼び掛けなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターが行っている色々な研修会や認知症をかかえる家族の会等に参加し相談、支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価、外部評価とも公表し、話し合いの中から意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	今年度の開催回数は、2回であった。地区社協や地域包括支援センター、地域住民が多数参加している。ただ、運営推進会議の在り方にもう一段の工夫が求められる。	地域との連携はできているので、今後は情報発信の場として運営推進会議を活用してゆくとよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会における、市町村の参加。交流等、様々な事柄について密に連絡を取り合っている。	市のグループホーム連絡会（9つのグループホームが参加）に参加し、事例共有し協力体制を築いている。また、市の担当課とも密に連絡を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いっさいの拘束を禁じ、開設以来、いかなる拘束も行っていない。職員にも具体的行為を周知徹底している。	拘束をしない為に家族の協力を求める場合もある。安全面に不安のある利用者は居室の近くで見守りをするなどして、センサーマットなどにも頼らないケアの工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所において、いかなる虐待をも見過ごす事なく、最善の注意を払っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を司法書士の先生の研修を行い、家族、職員等参加、話し合い活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、充分な時間をとり説明を行っている。 不安や疑問点に対する説明も充分行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会をもうけており、その中でホームの運営に関して現状報告をしている。家族の意見や要望を反映できるようにしている。	3ヵ月に1回、家族会を開催している。職員がいる場では話しにくいことも家族だけの時間を設けて話し合ってもらっており、会の代表から内容を伝えてもらい、意見や要望を反映させている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティング等において職員の意見や提案を聞き反映させている。	3ヶ月ごとの職員会議では、全員参加で十分な時間をかけてケアや運営に関する意見の交換を行っている。活発な意見交換を通して代表者、管理者と職員の間に信頼関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績等把握し、向上心を持って、働けるように努力はしているが個々の職員の要望までには至っていないのが現状である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ、外部研修に行く機会を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会にて、相互訪問を行っていて、ネットワーク作りは出来ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接により本人の情報を職員全員で共有する事と、入所直後は極力本人と過ごせるように、安心・信頼づくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接で、どのような経緯で現在に至ったのか？等、できるだけ家族の立場に立って共感するようにしている。又こまめに報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族が最も入居にあたって心配している事不安な事を聞きだして、それに対応できる様に努め注意深く観察している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の生活を自然体で過ごさせるようにしている。団欒の時、一緒にお茶を飲みながら会話を楽しんで信頼関係づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームでは、ケアに関しても家族と一緒に考え、一方的なケアにならない様にしている。一部ではあるが、家族にも協力してもらっている。（入浴・トイレ等）		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の記憶にある馴染みの人、場所は情報を得ているが、実際にその人や場所に行くのは難しいので家族に話しているのみである。会話の中には取り入れている。	利用者が重度化しており、馴染みの人との連絡、馴染みの場所へ訪問がだんだん困難になってきているが、会話の中で懐かしい話題を提供するなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、個々の性格や相性があるので、座席や関わりなどなるべく組み合わせを考えて常に気を配っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られたり、又、ご本人が亡くなられた家族に対しても納涼祭などに案内状を送っている。毎年来て下さる家族が何組かおられる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から本人の気持ちを汲み取れるように、傾聴しながら努力している。職員間で情報を出して話し合う事が多い。	入所の際家族からできるだけ多くの情報をもらっている。また本人が生活していた場所を訪問して、生活の様子の情報も集めている。入居後はコミュニケーションを重ねることで本人の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報等をセンター方式を利用し、職員全体でその人のこれまでの人生をある程度把握している。入居後は本人からの話をつけ加えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体で、利用者個々のその人らしい生活を尊重し、よく観察をしながら方法を皆で考えて意識を統一させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアについては、家族の面会の時などに随時報告、相談を行っている。家族の意向を取り入れ活かしている。必要に応じてDrやNsからも意見をもらい、ケアプランを立てている。	ケア会議で出た職員の意見を集約し、計画作成者がケアプランを作成している。医療的な項目に関しては医師や訪問看護師の見解をとりいれている。基本的には6ヶ月で見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に本人と職員の言葉のやりとりを記載し、情報の共有をしやすくしている。ケース記録をチェックしながら介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティア活動の一環として、1ヶ月に一度位で音楽療法を取り入れている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にあるスーパーに買い物に毎日出かけている。小学生と時々交流をしたり、老人会の行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族了解のもと、協力医に受診している。適切な医療が受けられるように、担当事務員に事前に連絡を入れている。	全員が協力医から診察を受けているが、個別に必要な診療科目は家族の協力を得て受診している。歯科は訪問診療が行われている。協力医と訪問看護の連携が密なので情報の交換もスムーズである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2～3回の訪問看護の訪看日に利用者個々の細部にわたり報告し相談している。２４時間指示を受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はサマリーでやりとりしている。個人情報保護により、入院中の情報は病院からは貰えないが、家族や訪看等に協力をもらいながら相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームの利用者も超高齢化し、90歳以上が9人中6人も存在している。終末期のあり方について、家族の意向を伺ってはいる。その際にホームで何ができるかきちんと説明している。	入居の際「重度化した場合における対応にかかわる指針」という文書を取り交わし、ホームの方針の理解を得ている。看取りの経験もあるが、家族の協力体制が重要と考えている。ホームでできる事、ご家族の役割などを十分に話し合って看取りをするかを決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議等で定期的に救急対応の確認をしたり、急変に起きた事故の初期対応を訪看も含め定期的、又は随時再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は年2回火災訓練を昼・夜訓練を行い、全員が対応できる様努力して、近隣や消防署にも協力をしてもらっている。地震災害については、課題を残している状態だが、近々取り組みたい。	年2回の火災訓練は一番困難と思われる夜間想定で行っている。職員は近隣に居るが、まだ防災のマニュアル、協力体制は構築されていない。食品の備蓄に関しては買い置きをしている。水に関しては井戸の利用、行政の協力が得られる。スプリンクラーは設置済みである。	災害に適切に対応する為にマニュアルが全員に周知されていることが望まれる。昨年度の目標達成計画にもあり、再度作成に取り組んでもらいたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、言葉遣いやプライバシーの保護、ケアの声かけには充分配慮している。	昼食時の職員の言葉かけは穏やかで丁寧であった。リーダー、管理者は日常の対応で気の付いたことは随時注意をしている。利用者に聞こえる可能性のある申し送りはイニシャルで行い、個人のプライバシーや誇りを傷つけないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話や動作の中から希望や思い、又気づきを見いだしている。その中から自己決定に繋いだり働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて自由に生活できる様にしている。家事活動を好む人、ゆっくりと会話を楽しみたい人、其々希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等は、その人の好みを知り、その人らしい服装ができる様に声をかけている。又は、自己選択できる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備は、利用者と職員が一緒に切ったり盛付けたり共同作業をしている。後片付けの食器洗いをできる人は個人で洗ってもらっている。	利用者は買い物、盛り付け、食器洗いなど、能力に応じて食事の準備や後片付けに関わっている。茶碗や湯飲み、箸は個人のものを使っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる分量や好みなどに配慮し、なるべく負担にならない様にしている。水分量は充分に取れる様に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず歯磨きを行っている。自分でできない人は口腔ケアを行っている。又、毎週金曜日の訪問歯科によって口腔ケアなども行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを24時間チェックしている。それに応じてできるだけ失禁をなくし、トイレで排泄できる様に誘導している。	チェック表で排泄パターンをつかみ、誘導して、失敗がないように支援をしている。普通の下着を使用している人もいる。排泄パターンに応じて夜間のみポータブルトイレを使用するなど、個人に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	当ホームの栄養士は、献立に食物繊維を多く含む食事を提供している。個人購入でヤクルト製品を飲用している方もいる。又、運動の一環として常に散歩に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日に入浴する人は大方決まっているが、その時の本人の意志に任せている。入浴中にコミュニケーションをとりながら気持ちよく楽しんでもらっている。	基本は1日おきの入浴になっているが、状況や希望により柔軟に対応している。入浴の拒否がある場合は家族の協力や、入浴しようという気持ちになるように医師に声掛けをしてもらったり、関わる職員を変えたりと工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の休息は、一人ひとりの状態を把握しながら随時声かけして、ソファーや居室に誘導している。夜間の入眠前は安心した声かけと環境づくりに心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの飲んでいる薬には意識できる様になってきた。薬が変更になった時などは、しっかり記載し充分に伝達している。 又、よく観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を決めている事はないが、できる人に声をかけている。全員で唄ったり、カルタ、百人一首など楽しんでいる。又、週一程度卓球で汗を流している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は、天気のよい日は随時行ったり庭で外気浴をしながら語らい楽しんでいる。普段行けない場所については、家族中心に支援してもらっている。	介護度が上がりなかなか外出が難しくなっている利用者もいるが、花見に戸外に誘ったり、外食を行ったり外に出る機会を作っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望により、お小遣い程度を所持している人もいる。時々買い物等で使用する時もあったが、だんだんと使えなくなり自分が持っている事も忘れている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や贈り物等があった場合、御礼の電話は本人が行っている。最近の状況では、ほとんど把握ができず難しくなってきている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事等で家族と一緒に撮った写真などをいつでも見られるように掲示している。又、花を置いたり季節を感じる物を掲示したりしている。	リビング、トイレ、お風呂などは車いす利用でも十分な広さがある。リビングにはソファの他、畳敷きの部分があり、腰かけることもできて、思い思いに寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルの他に、数ヶ所にソファーやイスを設置して憩いの場を提供している。利用者は思い思いに活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具の配置や好みの設定については、必ず家族と相談しながら行っている。その人の認知状況や行動を想定しながらその都度変更もしている。	居室は広めで、それぞれの利用者の状況に合わせて家具や好きな物を持ってきており、居心地良く過ごせるようにしつらえている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできる事は、なるべく自分で納得できる様してもらう。できない事は、自信を失くさない様サポートする。一人ひとりが自立した生活が送れる様常に声をかけて支援できるよう努力している。		